

## 平成 9 年度試験研究成果

区分	指導	題名	反射資材の利用によるストックの品質向上技術 ( 1 ) 反射フィルムのマルチ利用
〔要約〕ストックの主要な 2 品種（雪波、朝波）を用いて、反射フィルムの利用方法とその効果について検討した。その結果、反射フィルムのマルチ利用により曲がりの発生が減少し、花穂長や花径が増大するなど品質の向上が認められた。			
キ - ワ - ド	反射資材	ストック	品質向上 園芸畑作部花き研究室

### 1 . 背景とねらい

本県産ストックは、10月～11月が出荷のピークとなる作型が中心であるが、花穂や小花の大きさなど、品質の向上が急務である。そこで、花芽分化後の保温管理や灌水管理技術とともに、反射資材などを利用した光環境の改善により、品質の向上を図る。

### 2 . 技術の内容

( 1 ) 反射フィルム（アルミ蒸着フィルム）をマルチとして利用すると、除草としての効果が認められるほか、無処理区に比較して切花重で11～19%、花穂長で約11%、小花径では2～4%増加する。また、曲がりの発生や分枝の発生数は無処理区に比較して大幅に減少する。

### 3 . 指導上の留意事項

- ( 1 ) 反射フィルム（アルミ蒸着フィルム）をマルチとして使用する場合は、地温の上昇抑制のために定植の約1週間前に張る。
- ( 2 ) 穴開けは、携帯用ガスポンペを用いた市販の穴開け機を用いて、やや大きめの穴（約6cm径程度）を開ける。
- ( 3 ) 反射フィルムのマルチ利用の他、定植床と垂直に伸展して利用する方法の効果については、フィルム面からの距離との関係も考慮する必要があり、現在検討中である。
- ( 4 ) そのほかの栽培条件は、県栽培技術指針による。

### 4 . 技術の適応地帯 県下全域

### 5 . 当該事項にかかる試験研究課題

3 - 2 - ( 1 ) - ア - ( 1 )  
夏秋切りストックの品質向上技術

### 6 . 参考文献・資料

- ( 1 ) 野菜茶業試験研究年報 1995 反射フィルムマルチ栽培における栽植密度の違いがカネシオン切り花の収量・品質に及ぼす影響

## 7. 試験成績の概要

表 1 反射資材の利用方法と『雪波』の品質

処理 内容	開花日 (月日)	草丈 (cm)	茎径 (mm)	切花重 (g)	花穂長 (cm)	第1花の 最大径(cm)	分枝数 (本/1本)	曲がり* の程度	茎の** 強度	出荷率 (%)
垂直利用	10/6	79.2	8.6	170.9	18.9	4.8	0.2	1.2	2.4	93.4
水平利用	10/9	81.1	9.1	205.1	21.5	5.1	0.0	0.2	2.8	95.1
垂直 + 水平	10/4	78.8	8.9	192.4	20.5	5.1	0.5	0.6	2.5	93.4
無処理	10/8	81.1	9.0	185.5	19.5	4.9	0.3	1.3	2.3	90.2

\* : 曲がりの程度      3 : 出荷不能      2 : 出荷限界      1 : 軽度の曲がり

\*\* : 茎の強度      3 : 強い      2 : 並み      1 : 出荷不能

表 2 反射資材の利用方法と『朝波』の品質

処理 内容	開花日 (月日)	草丈 (cm)	茎径 (mm)	切花重 (g)	花穂長 (cm)	第1花の 最大径(cm)	分枝数 (本/1本)	曲がり* の程度	茎の** 強度	出荷率 (%)
垂直利用	9/28	80.1	7.9	147.5	19.2	5.1	1.2	1.3	2.1	87.2
水平利用	9/29	80.6	8.0	162.9	21.3	5.3	1.1	0.5	2.6	92.7
垂直 + 水平	9/27	78.0	7.7	155.9	20.4	5.2	1.6	1.1	2.2	87.2
無処理	9/29	81.9	7.6	134.1	19.9	5.2	1.8	1.4	2.0	83.2

\*、\*\*は、表1と同じ